

農推 第1149-7号
令和元年10月15日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（10月）

大阪府内の10月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。
台風や秋雨前線の影響による風雨によって病害が発生しやすくなっています。栽培管理には十分注意し、必要に応じて防除しましょう。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。

◎ 「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>◎ 「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>▲病害虫防除グループ
ホームページ

▲防除指針

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

目次

1 果樹(温州みかん、果樹類全般、バラ科果樹)	P.1~2
2 野菜(トマト・ミニトマト、きゅうり、あぶらな科野菜)	P.3~7
3 野菜類・花き類	P.8

新着情報

※病害虫防除情報「キャベツのアブラムシ類に注意！」を掲載しました。(令和元年10月9日)

※病害虫発生予察特殊報「ツマジロクサヨトウ」を発表しました。(令和元年10月3日)

※病害虫防除情報「ヨトウムシ類に注意！」を掲載しました！(令和元年9月25日)

果樹

10月の病害虫発生状況

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
温州みかん			貯蔵病害		
			ミカンハダニ		
果樹類全般		果樹カメムシ類			
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ 発生に注意				

温州みかん

貯蔵病害



緑かび病

特徴

- ◆青かび病、緑かび病、軸腐病などがある。
- ◆青かび病や緑かび病は主に傷口から感染する。

防除のポイント

- ◆収穫時、果実に傷をつけないように注意する。
- ◆貯蔵時の庫内温度は5℃前後、湿度は80～90%にする。
- ◆収穫前に**トップジンM水和剤**（青かび病、緑かび病、軸腐病）や**ベフラン液剤25**（青かび病、緑かび病）などを散布する。

ミカンハダニ



被害葉 ※

特徴

- ◆日当たり、風通しの悪い密植園や枝葉の混みあったところで多く発生する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、収穫前日数に注意して**ダニサラバフロアブル**、**ダニコングフロアブル**、**コロマイト水和剤**などを散布する。
- ◆薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

果樹類全般

果樹カメムシ類



クサギカメムシ

特徴

- ◆クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシなどが加害する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、**スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤**（かんきつ、かきなど）などを散布する。
- ※作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

クビアカツヤカミキリ

成虫の発生時期は過ぎましたが、フラスの排出は続いています。
確実に防除するためには被害の早期発見が重要です！被害状況を確認しましょう！！



幼虫

成虫

うどん状フラス

中華麺状フラス

特徴

- ◆成虫は体長4cm程度。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出す。
- ◆フラスが発生している穴には幼虫がいる可能性が高い。
- ◆**若齢幼虫は中華麺状フラスを出す。この時期の防除が効果的。**



被害枝



ネット被覆（もも）

防除のポイント

- ◆フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してから**ロビンフッド**、**ベニカカミキリムシエアゾール**を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

詳細は5月7日発表の防除情報
 「クビアカツヤカミキリに注意！」参照

<http://www.jpnn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyojyouhou/H3105kubiaka.pdf>

野菜

10月の病害虫発生状況

品目	程度		少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い	
	少ない	やや少ない						
トマト・ミニトマト (施設栽培)					コナジラミ類			
きゅうり (施設抑制栽培)						ウリノメイガ (ワタヘリクロノメイガ) ミナミキイロアザミウマ アブラムシ・ウイルス病		
								うどんこ病
								炭そ病・褐斑病
								べと病
あぶらな科野菜 (キャベツ、こまつな、しろな等)					根こぶ病			
					コナガ			
					ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)			
						アブラムシ類		
						シロイチモジヨトウ		

トマト・ミニトマト(施設栽培)

コナジラミ類



特徴

- ◆吸汁による白化のほか、トマトではTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

防除のポイント

- ◆トマト黄化葉巻病は定植後の早い時期に感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除草を徹底する。
- ◆ベストガード水溶剤、スタークル(アルパリン)顆粒水溶剤などを散布する。

きゅうり（施設抑制栽培）

うどんこ病



特徴

- ◆日照不足、乾燥条件、過繁茂による風通しの悪さにより発生が助長される。

防除のポイント

- ◆QoI剤、SDHI剤は耐性菌が発生しやすいため、同一薬剤の連用は避け、1作1回程度の使用に留める。

QoI剤の例：アミスター20フロアブル
ストロビーフロアブル
フリントフロアブル25

SDHI剤の例：アフェットフロアブル

- ◆葉裏から発生することもあるので、注意深く観察し、初発の段階で環境改善・防除を行う。
- ◆高温時や浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると、薬害が生じる恐れがあるため注意する。

炭そ病・褐斑病



炭そ病



褐斑病

特徴

- ◆窒素過多・肥切れは発生を助長する。
- ◆褐斑病は台風のあと、まん延することが多い。
- ◆いずれの病原菌も多湿下で、炭そ病は22度～24度、褐斑病は25度以上で発生しやすい。

防除のポイント

- ◆予防的にジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ベルコート水和剤などを散布する。
- ◆発生を認めたらアミスター20フロアブル、ゲッター水和剤などを散布する。

べと病



特徴

- ◆肥切れは発生を助長する。
- ◆多湿環境下の15～28度で感染し、最適温は20～25度である。

防除のポイント

- ◆予防的にジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ランマンフロアブルなどを散布する。
- ◆発生を認めたらベトファイター顆粒水和剤、リドミルゴールドMZなどを散布する。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)
- 農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

きゅうり(施設抑制栽培)

ウリノメイガ(ワタヘリクロノメイガ)



幼虫*

特徴

- ◆施設抑制栽培の生育初期に発生が多く認められる。
- ◆ハウスの開口部を防虫ネット（2mm目合）等で被覆し、成虫の侵入を防止する。

防除のポイント

- ◆生長点を食害するので、幼虫を捕殺する。
- ◆発生初期にゼンターリ顆粒水和剤、アファーム乳剤などを散布して防除する。

ミナミキイロアザミウマ



ミナミキイロアザミウマ被害葉



ミナミキイロアザミウマ※

特徴

- ◆高温少雨で増えやすい。
- ◆葉では汁が吸われ、その部分は色が抜ける。
- ◆葉裏では、被害部が光を反射して、テカテカ光る。
- ◆果実では、表面にサメ肌状の傷ができる。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、モベントフロアブル、プレオフロアブル、ディアナSC、アファーム乳剤などを散布する。
- ◆うね面にビニールフィルムでマルチを行うと虫の密度が下がる。

アブラムシ類・ウイルス病



葉のモザイク症状



ウイルス病によるしおれ

特徴

- ◆カボチャモザイクウイルス（WMV）は、葉では葉脈の両側に緑色が残る葉脈緑帯やモザイクを生じる。果実にもモザイク症状や奇形が生じる。
- ◆アブラムシによって媒介され、汁液接種によっても伝染する。

防除のポイント

- ◆発病すると、治療方法がないため媒介するアブラムシの防除を徹底する。
- ◆発病した株は早めに除去し、ほ場外に持ち出す。
- ◆汁液感染するので、発病株に接触したはさみや手で他の株の作業をしない。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>)
- 農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

根こぶ病



キャベツのしおれ症状と生育不良*

防除のポイント

- ◆あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ◆早植えを避ける。
- ◆土壌pHが低い（酸性）と発生しやすいので、石灰質資材等を施用しpH6.5～7に調整する。
- ◆前年発生した畑では、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワーなどでは定植前に、非結球あぶらな科葉菜類やかぶなどでは種前に、**ネビリュウ**や**オラクル粉剤**を土壌混和する。

コナガ



成虫※



幼虫※

特徴

- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆定植前かん注処理剤あるいは定植時施用粒剤と、本ぽでは異なる系統の薬剤を使用し、同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。

ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)



幼虫*

特徴

- ◆発生量が急増することがある。

防除のポイント

- ◆防虫ネット（2mm目合）等の被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。
- ◆セル成型育苗トレイに**プレバソンフロアブル5**（キャベツ、はくさい）などをかん注するか、**プリンス粒剤**（キャベツ、ブロッコリー）などを施用する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

シロイチモジヨトウ



キャベツを加害する幼虫

特徴

- ◆ねぎ・たまねぎに発生することが多いが、近年キャベツなどあぶらな科野菜での被害が増加している。他府県では、豆類やさつまいもでの被害が報告されている。

防除のポイント

- ◆ほ場をこまめに見回り、卵塊や分散前の幼虫は、見つけ次第捕殺する。
- ◆分散後は若齢幼虫のうちに薬剤で防除する。老齢幼虫になると薬剤の効果が大幅に落ちる。
- ◆同一薬剤の連用を避け、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を行う。

詳細は9月25日発表の防除情報
「ヨトウムシ類に注意！」参照

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/R0109yotoumushi.pdf>

アブラムシ類



キャベツを加害するアブラムシ類

特徴

- ◆葉裏に発生し、結球すると防除が難しくなり、品質が低下するので、発生初期に防除する。

防除のポイント

- ◆葉裏に発生するので、ほ場をよく見回り、発生を認めたら、早期防除を行う。
- ◆結球前の防除を徹底する。
- ◆薬剤が葉裏にも十分にかかるように丁寧に散布する。
- ◆発生を認めたら、キャベツでは**モスピラン顆粒水溶剤**、**コルト顆粒水和剤**、**トランスフォームフロアブル**を散布する。

詳細は10月9日発表の防除情報
「キャベツのアブラムシ類に注意！」参照

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/R011009aburamusshi.pdf>

野菜類・花き類全般

作物により登録内容が異なるので、ラベルの内容を必ず確認すること

10月の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き類 (露地)			オオタバコガ			
					シロイチモジヨトウ	

オオタバコガ



なすの花を加害する幼虫

特徴

- ◆果実や茎などに食入し、食入孔のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が劣るため、捕殺等も含めて早めに対応する。
- ◆発生を認めたら、プレオフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、花き類など）、アニキ乳剤（なす、トマト、ミニトマト、きくなど）などを散布する。

シロイチモジヨトウ



ねぎを加害する幼虫

特徴

- ◆ねぎ・たまねぎに発生することが多いが、近年キャベツなどあぶらな科野菜での被害が増加している。他府県では、豆類やさつまいもでの被害が報告されている。

防除のポイント

- ◆ほ場をこまめに見回り、卵塊や分散前の幼虫は、見つけ次第捕殺する。
- ◆分散後は若齢幼虫のうちに薬剤で防除する。老齢幼虫になると薬剤の効果が大幅に落ちる。
- ◆同一薬剤の連用を避け、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を行う。

詳細は9月25日発表の防除情報
「ヨトウムシ類に注意！」参照

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/R0109yotoumushi.pdf>

ヨトウムシ類については
「ヨトウムシ類の見分け方」を参照

http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_1.pdf